

冬の危険～寒い時期の注意～

1月になり、寒さも一段と厳しくなってきました。この時期は気温の低下とともに空気も非常に乾燥します。それに伴い、火災などの危険も増えます。冬に潜む危険について学び、未然に防げるように対策を立てましょう。

1 火災の危険性

寒い時期に使用するストーブやカセットコンロ等による住宅火災が急増する時期です。また、冬場は乾燥しているため、火が燃え広がりやすくなっています。東京都では住宅火災による死者数の半分以上が、ストーブ・コンロ等による出火が原因です。放火や電気火災なども含め、『住宅防火の心得』として次の6点を確認しましょう。

- ◎ストーブの周りに物を置かないようにしましょう。
- ◎調理中はコンロから離れないようにしましょう。
- ◎家の周りを整理整頓しましょう（放火防止）。
- ◎コンセント周辺の掃除を心がけましょう（トラッキング現象防止）。
- ◎住宅用火災警報器を居室・台所・階段に設置し、定期的に動作確認をしましょう。
- ◎ご近所同士で声をかけ合い、火の用心に心掛けましょう。

参考 ⇒ 東京消防庁 HPリーフレットより

2 路面に注意「ブラックアイス現象」

アスファルトの道路が黒く濡れているだけのように見えて、寒さで凍りついている現象を“ブラックアイス現象”と言います。この現象は、主に雪国で起こりますが、除雪されてアスファルトの道路が見えているからと安心していると、スリップして思わぬ事故につながる非常に危険な状態です。都心でも、雪が降った後はもちろん、雨が降った日の翌朝などは特に注意が必要です。

また、建物の影で日中でも日の当たらない場所や、濡れて見える道路にはくれぐれも注意しましょう。自分が転倒しないよう注意するだけでなく、すぐ近くを走る車がスリップしてぶつかってくる危険もあります。気温が下がる1～2月は、思わぬ怪我や事故にあわないよう、気温の低い日の路面状況には十分に注意して登下校をしましょう。

3 校舎内の危険

寒い日がまだまだ続きます。学校でも暖房器具のある部屋での安全管理や、気温が低く滑りやすくなっている玄関・廊下での怪我や事故防止のために以下のことにも十分注意しましょう。

- ◎ポケットに手を入れたまま歩かない。（転倒した際に手が出ずに、大きな事故につながります）。
- ◎カイロの取扱注意。（長時間同じ場所にあてて、「低温やけど」をしたり、中身が破損して目に入ったりすると大事にいたるケースがあります）。
- ◎廊下を走らない。（冬場はセーターなどから出る「ほこり」が床に溜まり、通常より滑りやすくなっています）。